



イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：553千円

大学・大学生・若者による浜松市の中山間地域再生の可能性を考えるシンポジウム 「まちむらリレーション市民交流会議2023」

目的・趣旨 本学学生（船戸ゼミや引佐耕作隊）や「浜松山里いきいき応援隊」など浜松の中山間地域で活動している若者が会し、中山間地域再生の方策を議論すると共に本学の地域貢献を発信する。

日時・場所 令和4年9月1日～令和5年3月31日
浜松市天竜壬生ホール（天竜区二俣町）

体制 （実施代表者） 文化政策学部 文化政策学科 教授 船戸 修一

共催・後援等 （共催）浜松市 市民部 市民協働・地域政策課

内容

令和4年度は浜松市天竜壬生ホールを会場として開催した。ただ新型コロナウイルス感染防止のため会場の入場制限をし、動画サイトによるライブ中継を実施した。第1部は「農山村からの地方創生：関係人口の可能性」というタイトルで小田切徳美氏（明治大学農学部 教授）に基調講演をしていただいた。第2部は事例発表「若者による中山間地域づくり」というタイトルで静岡県立天竜高等学校、静岡県立浜松湖北高等学校佐久間分校、本学船戸ゼミ、各々の代表者が地域貢献活動について発表した。第3部はクロストーク「これからの中山間地域づくり」というタイトルで船戸修一氏（本学文化政策学部 教授）による司会のもと小田切氏にコメントをいただきながら現在の活動の可能性や課題について意見交換を行った。



結果・成果

今回のシンポジウムの狙いは、以下3点ある。第1に、浜松の中山間地域における有効な地域づくりを構想することである。第2に、若者が流出する地域において地元の高校生や本学の学生（船戸ゼミ）が果たす役割や可能性を提示することである。第3に、このような浜松の中山間地域における活動成果を広く発信することである。今回は平日開催であったが、会場には130名の参加者があり、対面開催した4年前と変わらない状況であった。当日のシンポジウムでは本学公式YouTubeチャンネルでライブ中継も実施した。アーカイブが公開されているため、当日参加できなかった人も後日視聴することが可能である。よって対面参加者130名に加え、動画視聴者は4月5日現在、800名を超えている（昨年5月22日時点では610名）。今後も視聴者数も徐々に増えると思われる。よって対面開催だけでなく、オンライン開催も併用することによって幅広く本学による浜松の中山間地域への貢献可能性をアピールし、かつ浜松の中山間地域の問題解決に取り組む活動も発信することができる。こうして浜松の中山間地域住民へのエンパワーメントにもつなげていきたい。次年度も「まちむらリレーション市民交流会議」が果たす役割は大きい。

